



全国に6カ所しかない「模範工場」の一つで、燃糸会社の事務所として使われていた絹織記念館



耳を当てると機音が聞こえたという大岩「降臨石」もあるパワースポット「白瀧神社」



明治・大正時代の建物がレトロな雰囲気を出し出す伝建地区の町並み



染物体験で作った藍染のハンカチは世界でたった一つのお土産になります



土日・祝日に「絹織産周遊コース」を回るコミュニティバス「MAYU」

桐生織物業に貢献してきた後藤織物。現在も生産を続けています

「かかあ」が支えた絹の国ぐんま 伝統産業育んだ風土や歴史文化の魅力を発信

群馬県は、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」に象徴されるように、日本の製糸業をリードしてきました。絹に関する建物や生活文化なども「ぐんま絹遺産」として登録されており、2015年度に日本遺産として認定された「かかあ天下ーぐんまの絹物語」を通じ、ストーリーとして「絹の国ぐんま」の発信強化に取り組んでいます。

絹産業の歴史や文化を深掘り

桐生市と甘楽町、中之条町、片品村の1市2町1村に構成文化財が広がる同県の日本遺産は、「空ろ風」とともに上州名物として知られる「かかあ天下」を前面に打ち出したもので、その異彩を放つコンセプトが注目を集めています。

桐生市産業経済部では、「女性が養蚕や製糸、織物で家計を支え、男たちは『俺のかかあは天下』と呼んで、『かかあ天下』として上州名物になったことから、『かかあ』たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や工場を訪ね、文字通り、日本経済という天下を支えた女性たちの存在を通じて、絹産業を育んだ風土や歴史、文化を深く知っていただくというものです（観光交流課）」と説明。

同市には、「かかあ天下ーぐんまの絹物語」を構成する12の文化財の半数に当たる

6つが集中しており、その一つである白瀧神社は、今から千年前に京都から織物技術を伝えた「白瀧姫」を祀る神社です。同市から朝廷へ上った若者が和歌を通じて身分の違いを乗り越え白瀧姫を妻とした伝説から、縁結びの神社としても知られています。

日本遺産でも旅行業界と連携

また、桐生市では、昨年4月から今年3月まで実証実験として運行された低速小型電動コミュニティバス「MAYU（まゆ）」が、土日・祝日に「絹織産周遊コース」などで運行されており、無料で利用できます。

低炭素型スローモビリティとして注目を集めている「MAYU」は、環境にやさしいだけでなく、ゆっくりとしたスピードで走行するバスから桐生市の新しい魅力を発見できる新たな二次交通の役割も果たすもので、「車内では常に観光ガイドも行われているので、桐生の観光スポットを回る足として活用してもらっただけでなく、織都として繁栄を物語る近代化遺産や豊富な食文化などへの理解も深めてもらえれば「観光交流課」と期待を寄せています。

桐生市では、歴史的な建物が多く残されている本町地区が「重要伝統的建造物群保存地区」に認定され、同市を訪れる旅行者も着実に増えてきていることから、「日本遺産のストーリー」に基づくツアーづくりなど、旅行業界との連携による旅行者の誘致を図っていきたく考えます。